

校長通信第20号

成長の物語を語ろう！

～平成26年度学校説明会～

越谷北高等学校長 下山 忍

本日は、お忙しい中、また足元の悪い中、本校の学校説明会においでいただきまして、誠にありがとうございます。心から歓迎いたします。本校は、創立46年目を迎えた全日制男女共学校です。昭和44年に普通科として開校し、平成元年には理数科を設置して、今日に至っております。現在、埼玉県公立高校には理数科を持つ学校は5校ございますが、本校はそのうち最初に設置された学校であります。

さて、本県の関根郁夫教育長は、各学校で行われている教育活動は1つの「物語」でとらえることができると言われています。それぞれの学校がどのように生徒を育成しているのか、どのような力をつけさせているのか、ということは「目指す学校像」を最終場面とする「成長物語」であるという意味です。

このことを本校に即して申し上げますと、入学した1年生たちが学ぶ教室の場面から始まります。本校は進学校ですから、希望進路の実現のために熱心に勉強に励まなければなりません。毎日の授業が真剣勝負です。中学校とはスピードの違う授業、予習を前提とした授業にとまどいを見せる人もいます。宿題の多さにも圧倒されるかもしれません。160校以上の中学校から集まって来た同級生も皆秀才に見えて緊張します。しかし、しばらくすると、皆楽しい仲間であることに気が付いて安心します。そうしたクラスメートたちと語り、切磋琢磨する中で、進度の速い授業も当たり前になり、2年生になるころには、すっかり慣れ、自分のペースがつかめています。3年生になると、授業のほか、早朝・放課後、そして長期休業中に講習が行われます。大学合格のための実践力育成です。机を並べる同級生はライバルですが、仲間でもあります。声を掛け合い、励ましあって、受験勉強に取り組みます。「受験は団体戦」というのが本校の考え方です。

しかし、北高の生活は勉強ばかりではありません。ほとんどの生徒が部活動に所属します。中学校とは異なる部活動に入部する人もいます。先輩と後輩の仲はととてもよく、毎日元気に活動しています。部活動は、ホームルームに加え

て、もう1つの居場所と言ってよいでしょう。そして、体育祭や文化祭、球技大会などの学校行事もたいへん盛んです。生徒会が中心となり、実行委員会の生徒が中心となって創り上げます。この盛り上がりは大変なもので、早朝や昼休みなどの短い時間まで活かして、事前準備や練習に取り組みます。学校行事では、北高生たちは、授業とはまた別の表情を見せてくれます。そして、こうした活動を通して、高校生活を楽しむとともに、将来必要とされる連帯感・共感力・コミュニケーション能力などを鍛えているのです。

本校の「目指す学校像」は、「全人教育を目指す進学校」です。私たちは、人格を調和的に発達させ、自分の希望する進路を実現することを支援しています。それが本校の「成長物語」の最終場面にあたります。卒業証書授与式の場面で、生徒たちが自分の高校生活に満足してくれていたなら、校長として、こんなに嬉しいことはありません。しかし、本校の「成長物語」の最終場面には、さらにエピローグがあります。それは、本校卒業後、さらに大学卒業後に、卒業生たちが、社会のリーダーとして、自分の役割をしっかりと果たして、困難な課題に立ち向かい、我が国と国際社会の未来を切り拓いていく姿です。心からその実現を望んでいます。

さて、中学生の皆さんにとって、高校入試は、これまでの人生の中で、最初の試練かもしれません。しかし、それに向かって一生懸命に取り組むことは、必ず自分のためになります。努力は決して自分を裏切りません。そういう意味で言えば、今取り組んでいる受験勉強も、皆さんの「成長物語」の一コマであり、プロローグとも言えるでしょう。意欲をもって、自分の夢に向かって努力する皆さんの入学をお待ちしております。本日が、皆さんと私たちにとって、素晴らしい出会いとなることを祈念し、校長挨拶といたします。健康に留意して、後悔のないように頑張ってください。